



関西健康・医療創生会議での今後の取組について

令和元年 8 月 29 日

イノベーション推進担当

関西アカデミアの「医の知」を将来の産業競争力と住民福祉に生かし、関西に次世代主力産業の創出と良好な健康・医療環境を実現するため設置した「関西健康・医療創生会議（以下「創生会議」）」については、これまでの取組の経過を踏まえ、今後、以下の通り進める。

1 これまでの取組

(1) 前回・創生会議アドバイザーボード会議で中間提言(平成 31 年 3 月)

【中間提言の内容】

- ① 関西での健康・医療情報の利活用を推進する組織の具体化
- ② 健康・医療データを有効活用できるデータサイエンス人材の早急な育成
- ③ 2025 大阪・関西万博の開催に向け、関西が一体となって意見を発信

(2) 中間提言の具体化を図るため、創生会議内にワーキンググループ設置(平成 31 年 4 月)

- ワーキンググループ 3 回、企業による意見交換会 2 回、その他企業ヒヤリング実施
- 文部科学省が「関西広域医療データ人材教育拠点形成プログラム」採択
(関西広域の 11 大学、創生会議による共同提案) ※全国 2 か所

(3) 2025 大阪・関西万博を視野において、次の事業を実施する方針を決定

(8 月 19 日 アドバイザーボード会議)

- デジタルヘルス・データヘルスに焦点を絞って関西にビジネス環境を整備
- 関西広域全体のデータ連携基盤の整備を促進

基礎自治体データが重要なことから、自治体も加わった実証実験を企画・先行実施し、成果を関西全体に展開

※先行実施可能な事業(下記 2)について、まず、具体化に取り組む

2 先行実施事業

(1) 産業界、行政向け研修・セミナー事業の実施 [自主事業]

- 短期研修・啓発セミナー

「ヘルスケアデータの利活用の可能性と実際(仮)」 (初心者向け)

- 実践研修・セミナー

「ヘルスケアデータの利活用の具体的方法(仮)」 (現場技術者、専門職向け)

(2) 関西広域のアカデミアと連携した人材育成への支援〔受託事業〕

産業界や行政の人材育成ニーズと大学等の人材育成プログラムとのマッチングを支援

※文科省事業「関西広域医療人材教育拠点事業形成プログラム」の産学連携窓口業務の一部を受託

(3) 調査研究事業〔協賛金事業〕

企業ニーズ調査等から、関西広域で取り組むテーマを設定し、自治体、企業、大学等のチームにより事業を検討

【テーマ例】

- ・認知症、糖尿病などの具体的な疾患に関し、企業やアカデミアが利用できるデータを整備し、これによる支援サービスを実現し、具体的な予防対策とする。
- ・分散している各種データ(健診、介護含む)を繋ぎ、利用可能なデータとなる連携基盤を実現する。

(4) 実施体制

- NPO 法人関西・健康医療学術連絡会（理事長：井村裕夫）事務局に、特命チームを設置し、将来的な法人化・事業化を検討
- スタートアップのため、当分の間、企画参事等により NPO 法人を支援する。
- 企業賛助会費、調査研究参加費、セミナー会費 等を財源とする。

3 創生会議で引き続き実施する事項

- 提携セミナーやシンポジウムによる普及啓発と機運醸成
- 2025 大阪・関西万博への対応

4 今後のスケジュール

- 健康・医療学術連絡会での先行取組開始（9月～）
- 創生会議シンポジウム
 - 【日 時】令和元年 10 月 11 日(金)
(15～17 時 シンポジウム) (17 時～ 意見交換会(会費制))
 - 【会 場】関西経済連合会 会議室
 - 【テーマ】関西におけるアカデミア連携による新たな医療人材の育成
 - 【内 容】
 - 招待講演 東京大学大学院教授 大江 和彦
 - 文科省事業の紹介 京都大学大学院教授 黒田 知宏
 - 主要大学による取組（京都大学、大阪大学、神戸大学）
 - 関西健康・医療創生会議の取組